

無料

事前
申込制

研究者が目指す社会実装

～大学等の知を活かした社会課題の解決に向けて～

沖縄県では、県内大学等の研究成果や技術等を社会課題解決や社会実装につなげるため、社会課題解決に向けた科学技術プロジェクトの創出支援を実施しています。

研究者がどのように社会課題と出会い、どのようなつながりや研究を経て、社会実装を目指しているのか、研究者が目指す社会実装について、県内外の事例をご紹介します。

令和6年
1月10日 水
13:00 - 17:00 (開場12:30)

会場

沖縄県立博物館美術館 講堂

参加費

定員

無料 150名(会場)、150名(オンライン)

基調講演

子どもを取り巻くすべての人を支援者に
-科学的根拠に基づく発達障害支援の社会実装-

特定非営利活動法人 ADDS 共同代表 **熊仁美氏**



取組紹介

- 1 瀬名波 出氏**(琉球大学工学部 教授) 琉球大学のやさしい海ぶどうプロジェクト
- 2 姜 東植氏**(琉球大学工学部 准教授) 三線文化の継承・発展のための音色分析と職人育成支援
- 3 古川 絵美氏**(OIST発達神経生物学ユニット グループリーダー) 科学知識に基づく児童行動支援のモデル開発
- 4 島村 聡氏**(沖縄大学人文学部 教授/地域研究所 所長) 沖縄県の「子どもの貧困」の特徴
-私立大学ブランディング事業の取り組みの経過とともに-

パネルディスカッション

研究者が目指す社会実装 ～大学等の知を活かした社会課題の解決に向けて～

パネリスト

・熊仁美氏 ・瀬名波 出氏 ・姜 東植氏 ・古川 絵美氏 ・島村 聡氏

モデレーター

・川北 秀人氏

(JST・RISTEX「SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム」(SOLVE for SDGs) 総括)

主催 沖縄県企画部科学技術振興課
事務局 琉球大学 研究推進機構 研究企画室(沖縄県委託事業 受託者)
E-mail: u2v8sdgs@w3.u-ryukyu.ac.jp TEL: 098-895-9132/9081
https://ura.skr.u-ryukyu.ac.jp/main/index.html

後援 一般社団法人大学コンソーシアム沖縄

琉大 URA

検索

お申込みはコチラから



研究者が目指す社会実装

～大学等の知を活かした社会課題の解決に向けて～

令和6年 1月10日(水) 13:00-17:00(開場12:30) 会場: 沖縄県立博物館美術館 講堂

プログラム (開場12:30)

13:00	主催者あいさつ	沖縄県科学技術振興課長
13:05	事業説明	沖縄県科学技術振興課担当者
13:10	基調講演	熊仁美氏 「子どもを取り巻くすべての人を支援者に-科学的根拠に基づく発達障害支援の社会実装-」
14:10	取組紹介1	瀬名波出氏 「琉球大学のやさしい海ぶどうプロジェクト」
14:30	取組紹介2	姜東植氏 「三線文化の継承・発展のための音色分析と職人育成支援」
14:50	取組紹介3	古川絵美氏 「科学知識に基づく児童行動支援のモデル開発」
15:10	取組紹介4	島村聡氏 「沖縄県の「子どもの貧困」の特徴 -私立大学ブランディング事業の取り組みの経過とともに-」
15:30	(休憩15分)	
15:45	【パネルディスカッション】	「研究者が目指す社会実装 ～大学等の知を活かした社会課題の解決に向けて～」
	パネリスト	モデレーター
	・熊仁美氏 ・瀬名波出氏 ・姜東植氏 ・古川絵美氏 ・島村聡氏	・川北秀人氏
16:45	クロージング	



特定非営利活動法人
ADDS 共同代表
熊仁美氏

2007年慶應義塾大学文学部心理学専攻卒業、同大学大学院社会学研究科心理学専攻博士課程修了、博士(心理学)。自閉症児の家庭療育をサポートする学生団体から活動を始め、09年ADDSを設立、11年NPO法人化。保護者支援や発達支援プログラムの開発と効果検証を行う。16～18年度、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)採択の研究プロジェクト代表者として、ABAに基づく早期発達支援の社会実装や科学技術の活用研究に取り組むなど、精力的に活動している。
特定非営利活動法人ADDS共同代表/江戸川区発達相談・支援センター長/博士(心理学)/公認心理師/日本女子大学講師/慶應義塾大学非常勤講師/法政大学兼任講師ほか



琉球大学工学部
教授

瀬名波出氏

1967年那覇市生まれ、2001年名古屋大学大学院工学研究科工学博士取得、18年より現職。
09年から海洋バイオマスを利用したCO2削減・利活用研究に着手。「技術は社会をやさしくする」をモットーに、広く学外の研究機関と協働して、沖縄の産業にも貢献できるよう、海ぶどうやモズク等の海藻の早期育成の研究を推進している。



琉球大学工学部
准教授

姜東植氏

1994年韓国より来日、99年大阪府立大学大学院工学研究科工学博士取得、同年琉球大学工学部情報工学科に着任。
これまで音響を対象に開発してきた分析技術を、音楽による感性や紙葉類の疲労判別などに適用する応用研究に力を注いでいる。
さらに、機械学習技術を活用し、音声から感情を推定する分野にも研究対象を広げ、学生とともに様々な技術・システムの開発研究を進めている。



OIST発達神経生物学ユニット
グループリーダー

古川絵美氏

米国で臨床心理学の博士号及び心理士の資格を取得した後、2008年に沖縄科学技術大学院大学(OIST)に就任。現在、発達神経生物学ユニット・OISTこども研究所のグループリーダーとして、注意欠如多動症(ADHD)の研究を行なっている。国内外の共同研究者や当事者と共に、基礎的行動研究、神経画像研究及び介入研究等幅広い研究に携わっている。



沖縄大学人文学部 教授
地域研究所 所長

島村聡氏

市役所での福祉実務経験(障がい者全般、健康福祉計画策定、地域包括支援センターの立ち上げ、地域福祉、ホームレス、生活困窮者対策)の後、2013年から沖縄大学に移り、障害者自立支援制度や福祉コミュニティに関する講義を担当。16年から沖縄県の子どもの貧困対策に関する調査および研修に携わっている。学外では相談支援専門員や介護支援専門員、子どもの貧困対策支援員、パーソナルサポーター、地域定着支援センターワーカーなど、主に専門職の教育支援を行っている。



◇JST-RISTEX「SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム」(SOLVE for SDGs) 総括
◇IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]代表者 兼 ソシオ・マネジメント編集発行人

川北秀人氏

1964年大阪生まれ。87年に京都大学卒業後、(株)リクルートに入社。国際採用・広報・営業支援などを担当し、91年に退職。その後、国際青年交流NGOの代表や国会議員の政策担当秘書などを務め、94年にIIHOE設立。長年、社会課題の解決に取組む事業や組織作りを支援し、2005年からは国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)社会技術研究開発センター(RISTEX)において、「社会実装」支援プログラムの設立当初からアドバイザーを、19年に新設された「SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム」(SOLVE for SDGs)では創設当初から総括補佐、23年から総括を務める。